

2017/09/24

「初めに言葉があった」ヨハネ1章1節

■人はみな神を求めている

人は、音楽を聞いたり、絵を見たりすると、自由を得たような感動を覚えます。それは、なぜなのでしょう。

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」(ヨハネ1:1)

私たち人間は、神に似せて造られた、神の体の器官だと、聖書は教えています。これは、神と一つとなるように造られたということです。

私たちの神に似せられている点、その一つは、言葉を持っているということです。この地上の生き物の中で、人間だけが、物事を考えるときに、想像力を働かせることができ、それを言葉で理解しています。これが、神に似せて造られた点であり、言葉を持っているということは、神を持っているということでもあるのです。

神とは、何ものにも制約されない方であり、一切の条件を拒否し、一切の条件をクリアすることができる自由を持った方です。本来、神の一部として造られた人間も同じ自由を持っていました。ところが、悪魔によって神との結びつきを失ったために、人間は様々な制約を受けるようになりました。しかし、言葉の上でなら、どんなことも可能です。今、私たちは言葉によって、自由を得ているのです。

こうして、言葉として自由を味わっている人間は、実際にももっと自由を得ようと、自分の制約・限界を越えようとして生きています。ある人は音楽、ある人は文学、ある人はスポーツで、あるいは良い行いや知識などで、自分の限界を越えようと日々チャレンジしているのです。それは、一般的には、向上心とかチャレンジ精神などと呼ばれていますが、もとをただせば、自由を求めているということです。人が自由を求めるのは、神に似せて造られた本来の自分に戻ろうとする行為なのです。

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。いつ、私は行って、神の御前に出ましようか。」(詩篇 42:1-2)

私達の魂はみな、神を慕い求めています。それが、人が自由を求めることにつながっています。私達が自由を求めるのは、神が自由な方だからです。

■人はみな愛することを求めている

自由を求める魂は、制約を受けると反発し、自分を制約する相手を敵とみなします。親子げんかも、夫婦げんかも、自分を制約する相手から自由を得ようとして争っているわけです。しかし、魂が本当に求めているものは、実は、目の前の相手からの自由ではなく、何ものにも制約されない神ご自身なのです。神を求めているのに、それに気づかず、目の前のものを敵とみなして抵抗する私達のことを、イエス・キリストは「彼らは、自分で何をしているのかわからないのだ」と言われました。

神は、私たちに言葉を持たせましたが、罪によって死が入り込んだため、今、その自由が発揮されない状態にあります。私達が受けている制約の中で、最も大きな制約・私達を一番苦しめている敵は、自由に人を愛せなくなったことです。人を愛するのに条件をつけてしまうため、「がんばったら愛してあげる」、「こんなことしかできない者は愛せない」と言って、自分の基準に合わない者を見ると、争い、けんかをするのです。しかし、自分では気づかなくても、本来神の一部として造られた私たちの中には、愛が存在しているため、人を憎んだり争ったりすると、後悔の思いが生まれます。それなのに、どうしても条件をつける生き方をやめることができません。

神様の愛は、条件をつけたりしません。神はどんな罪でも赦すと言い、何があっても受け入れると言われました。そして、私たちの罪をせおって十字架に架られました。神の愛は、私たちのように条件に縛られず、自由に愛することができる方です。

人は、自由に愛することを求めています。いくら自由を求めても、限界を越えることはできず、制約から逃れることはできません。ソロモンは、自分の力では、越えることができず、自由になれない、このような人間の生き方に対して、「空の空。すべてはむなしい。」と悟りました。

自分の力では、決して自由にはなれないというところに、神の福音があるのです。

1. 人を自由にできるのは神だけ

どんなに向上心を持って何かにチャレンジしたところで、私たちは人を愛せるようにはならず、自由にはなれません。私たちが求めている自由とは、「愛する」ということです。私たちが自由になる、つまり、人を愛せるようになるには、神にさせていただくしかないのです。

「キリストは、自由を得させるために、私達を解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」
(ガラテヤ 5:1)

イエス・キリストは、私達を自由にするために、この地上に来られました。それは、人を愛せるように変えてくださるということです。

イエス・キリストは、死後に復活できるという福音によって、私たちの自由をうばっている死というくびきから私たちを解放してくださいました。今、私たちが負っている最大のくびきは、自由に人を愛せないことです。私たちは、愛するために、どうしても人に条件をつけてしまいます。しかし、神様は、あなたを無条件で愛することによって、このくびきをも、取り除いてくださるのです。イエス様が、自分を無条件で愛してくださっているということを受け入れない限り、人は自由になれません。神に愛されている自分を受け入れることでしか、人を愛せるようになる道はありません。もし、人に対して愛せないという気持ちを持つならば、それは、イエス・キリストを受け入れていないということです。

2. 自分が求めているものは神だと気づくこと

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」（ヘブル 12:2）

信仰とは、神を求めて生きる運動のことです。それを、「愛」という言い方をすることもあります。神は、私たちが神と結びつくように、私たちの中に「信仰」あるいは「愛」と呼ばれるものを造りました。「愛」とは、神に結びつこうとする運動です。聖書は、信仰（愛）の創始者は神だと教えています。人が自由を求めるのは、神にそのように造られたからであり、それはすなわち、神を求めているということなのです。

ところが、自分が神を求めていることに気がつかないと、別のものに結びつこうとしてしまいます。この状態が罪です。

多くの人は何かを手にすることで、自由を手に入れようとしています。権力やお金、何らかの力で自由を手にしようとして、たとえばお金が神格化されて神のようになってしまうのです。しかし、神以外のものと結びついて自由になろうとしても、自由を手にはできません。自分が本当に欲しているのは神であることに気づかなければ、自由を手にはできないのです。そのため、聖書は、信仰の創始者から目をそらさないでいなさいと教えています。それは、聖書に立って物事を受け止めるということになります。

3. 言葉を正しく使う

言葉には自由があり、力があります。

人類社会が進歩を遂げてきた背景には、言葉の概念がありました。「こういう社会があればいいな」という概念から始まり、それを実現させることで、この社会は進歩してきたのです。こうした人類の歩みから見ても、言葉には現状を変える力があることが分かります。ということは、言葉は人を生かすことも殺すこともできるということです。言葉を正しく使わなければ、人は不自由になってしまいます。ですから、自由を奪って苦しめる言葉ではな

く、生かす言葉を話しましょう。

私たちから自由を奪ってしまう言葉とは、「怒り」を伴う言葉です。例えば、「赦せない」という言葉を使い、人を裁くなら、サタンの罠に陥ると、聖書は教えています。私たちが、怒れば怒るほど、裁けば裁くほど、人に対して敵意を抱くことになり、自分を苦しめます。なぜ、人を憎むと苦しくなるのか、それは、私たちの中には本来愛があり、自由を知っているからです。

「さばいてはいけません。さばかれないためです。あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。」

(マタイ 7:1-2)

さばくとおりにさばかれるとは、さばけばさばくほど、人を愛せなくなって、自分の自由が奪われるということです。自由を得たいと思うなら、裁いたり、怒ったりすることをやめなければなりません。

反対に、人を生かす言葉とは、「感謝」です。感謝できずにつぶやくと、ますます不自由になっていきます。

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(Iテサロニケ 5:18)

神が私たちに望んでいることは「全てのことを感謝すること」です。それは、神に感謝することです。感謝する言葉は、私たちに自由にします。失敗しようが、試練に会おうが、感謝すれば楽になります。感謝するということは神にゆだねることだからです。「感謝します」という言葉は、自分で管理するしかありません。感謝すると、心に自由が訪れます。

自分は、神を求めて生きていることに気づき、神の言葉を求めて生きていきましょう。言葉は、私たちの自由を奪うこともでき、愛（信仰）という自由を得るために用いることもできます。どのような言葉を使うのか、自分自身で心がけて気をつけていきましょう。